



JAPAN  
MARROW  
DONOR  
PROGRAM

## 安全情報

平成 16 年 10 月 15 日

(財) 骨髄移植推進財団  
認定施設採取責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団  
危機管理担当  
常任理事 小寺 良尚

### 骨髄バッグ内の培養液に汚染の可能性が認められた事例

このたび、骨髄液を約 350ml(メディウム+ヘパリンを含め約 400ml) を採取し、バッグに注入後、メディウム(培養液)が汚染している可能性が判明し、骨髄液を廃棄した事例が報告されました。

採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

#### < 背景 >

当該施設では、メディウム 40cc + ヘパリン 10c を、その都度シリンジで吸って、術野にある目盛りカップ入れ、それを骨髄採取用のシリンジで吸い取り、骨髄液を吸引している。

#### < 経過 >

骨髄採取予定量 : 870ml  
自己血準備量 : 600ml

- ・ 1 回目のメディウム+ヘパリンを使って、採取した骨髄液をカップ A に入れ、メディウム+ヘパリン使い切った。
- ・ 2 回目のメディウム+ヘパリンを受け取り、骨髄液を採取しカップ A に入れた。
- ・ カップ A が目標量まで達したため、カップ A 内の骨髄液をバッグに詰めた。
- ・ バッグに詰めたところで外回り看護師より、「2 回目のメディウムを吸い取る際に、メディウムボトル内にシリンジについていた針を落としてしまったが、シリンジに新しい針をつけ、2 回目のメディウムを吸って、そのまま術野の目盛りカップに入れた」との報告があった。

< 汚染の可能性の根拠 >

メディウムをとるシリンジと針はもともと別々のもので、針先は清潔であっても、針の元とシリンジの接触部分は不潔な手で触れた可能性があった。

従って、その針の入ってしまったメディウムと、そのメディウムが入った最初のバッグ内の骨髓液も、汚染の可能性が否定できない。

< 対応 >

使用する器具等はすべて一新し、術野の消毒からやり直した。

採取終了後、ドナーには事実を説明し、汚染の可能性のある骨髓液は廃棄した。

< 骨髓採取量と細胞数 >

骨髓採取量は、自己血準備量を考慮して総計で最大 1000ml とし、あらたに 650ml を採取、採取細胞数は、 $1.01 \times 10^{10}$  患者体重あたり、 $1.63 \times 10^8$  の有核細胞が採取できた。

当財団としては、再発防止の観点から、当該事実を各骨髓採取施設に対し情報提供し、注意喚起を促すことと致しました。

以上をご確認の上、ご対応をお願い申し上げます。

財団法人骨髓移植推進財団  
事務局

〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町 3 丁目 19 番地  
廣瀬第 2 ビル 7 階  
TEL 03 - 5280 - 8111  
FAX 03 - 5280 - 0002